



【花の歳時記 菊編】重陽の節句



花名：キク 科名：キク科

ちょうよう

「重陽の節句」が菊の節句と呼ばれる理由

皆さんは「重陽の節句」をご存じでしょうか。重陽の節句は旧暦の9月9日の行事で五節句の一つです。五節句は古代中国から伝わる「陰陽五行」から由来したといわれるもので、奇数を「陽」偶数を「陰」とみる陰陽思想からきました。月と日に縁起の良い「陽」が重なる日は足すと「陰」となり縁起が悪い日となるため、旬の物を食べて邪気を払う風習がありました。

五節句は1月7日「七草の節句（七草粥）」3月3日「桃の節句（ひな祭り）」5月5日「菖蒲の節句（端午の節句）」7月7日「笹の節句（七夕）」9月9日「菊の節句（重陽の節句）」など季節の代わり目に行う伝統行事の事です。因みに1月1日の元旦は別格扱いで1月7日になったようです。但しこれらは全て陰暦で行われていたため現在の季節とは若干違ってきます。今回は重陽の節句と菊の関りを調べてみました。

菊に込められた長寿と健康の願い

中国から奈良時代に伝来した菊は古くから薬草とされ不老長寿の象徴とみなされてきました。菊の香りやエキスには邪気を払う力があると信じられ健康と長寿を願う花として重陽の主演となりました。

菊を楽しむ行事や風習

平安時代、宮中では菊を眺めながら菊酒をたしなみ、詩歌を詠む宴が開かれました。前夜に菊の花に真綿を被せ、露と香りを移し、その綿で身体をなでて長寿を願う「着せ綿、被綿」や、菊を浮かべた湯に入る「菊湯」、菊枕など、菊に触れて邪気払いを行う風習が各地に残っています。

現代に残る菊と重陽

現代でも皇室園遊会（観菊御宴）として行われています。また、九月九日前後に神社や寺で重陽祭が行われ菊花展や菊尽くしの料理が供される地域もあります。食用菊や菊酒を楽しみながら季節を味わうことは今も生きている重陽の楽しみ方と言えるでしょう。菊を愛でながらのひと時を楽しんでみませんか。

（写真・文：村尾廣子相談員）



菊の香を楽しむ菊酒



着せ綿を模した和菓子



重陽の節句を祝う菊料理

9月の花とみどりの講習会

家庭で簡単な野菜作り

内容：プランターなどでの野菜の作り方を学びます
日時：9月12日(土)10時から12時まで
場所：花とみどりの相談所
講師：開発 基良さん(元同所相談員)
定員：24人
費用：500円
申込：9月5日(土)9時15分から 先着順 電話可



木の実を使ってクーゲルバウムを作ろう

内容：木の実を使って樹(クーゲルバウム)を作ります
日時：9月26日(土)10時から12時まで
場所：花とみどりの相談所
講師：阪野 芳子さん(草花・木の実ハンドメイド作家)
定員：20人
費用：1,800円
申込：9月19日(土)9時15分から 先着順 電話可



イメージ画像

※当日気象条件による警報が発令された場合には
講習会を中止とさせていただきます。

秋にもうひと花咲かせる【ペチュニアの切り戻し】

●秋にもうひと花咲かせて楽しんでみてはいかがでしょうか

- ・茎が長く伸びている
- ・花がらが残っている
- ・花や蕾が少ない
- ・葉は茎の上半分の方に多い

など、こんな風になっていたら...

思いきって、伸びた茎を切って半分の高さにしてみましょう！

※下側には必ず葉を残すのがポイント！！

約一か月後には花を楽しめます

※9月下旬までに行うとよく、切った後に活力剤や液肥をあげると良いです



花とみどりに関する
相談を受け付けています
お気軽にどうぞ！

花とみどりの相談

相談時間

火曜日・木曜日の13時から16時30分まで
電話による相談も行っています。

9月の休所日

毎週日曜日・月曜日と22日(火)から24日(木)です。



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曽根南町1丁目4番1号(豊島公園内) 阪急宝塚線 曽根駅南へ約500m

TEL 06-6863-8439

FAX 06-6863-3638